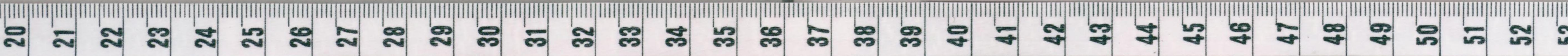


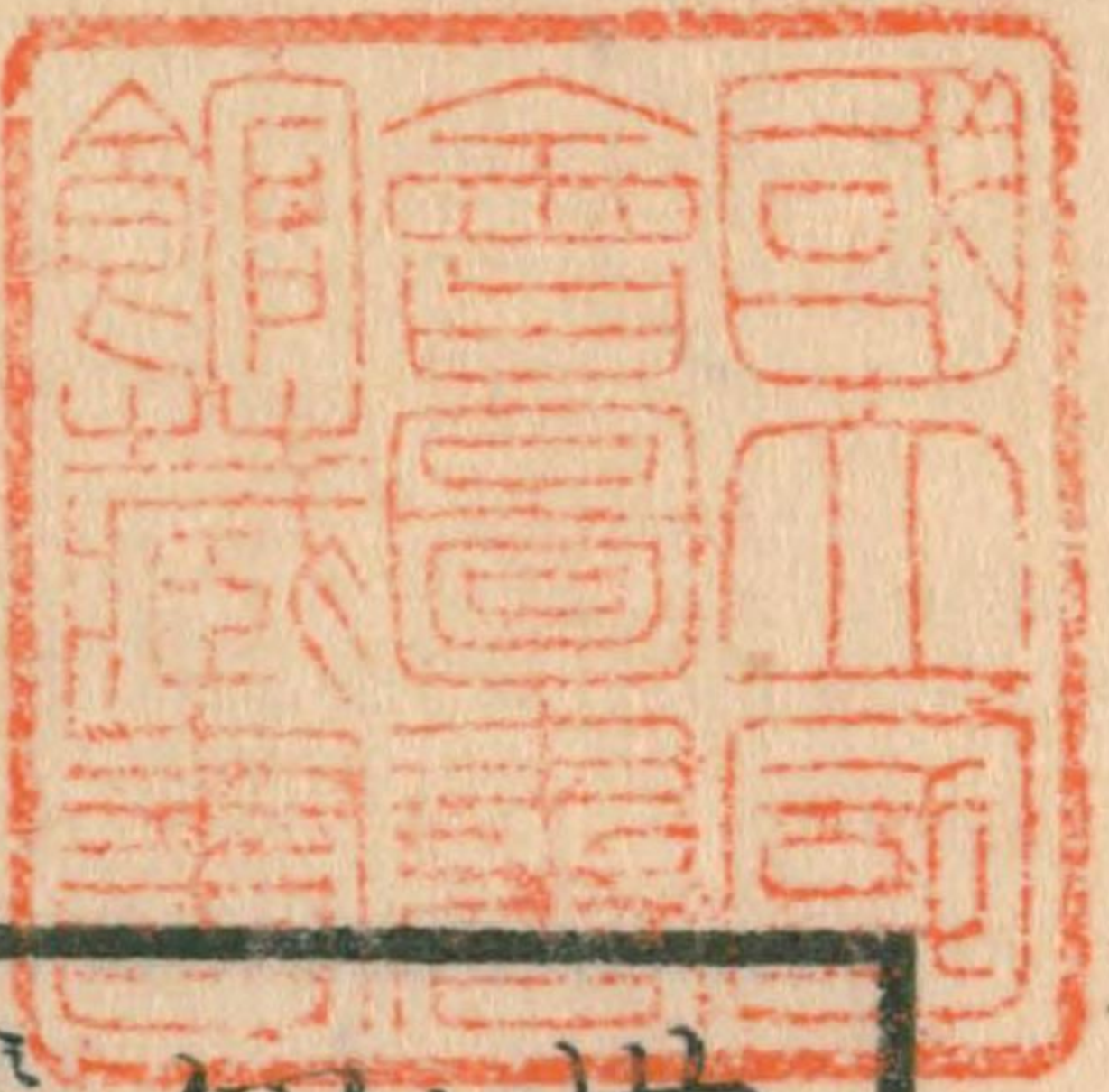
世継草

全

121.27

Su87/y



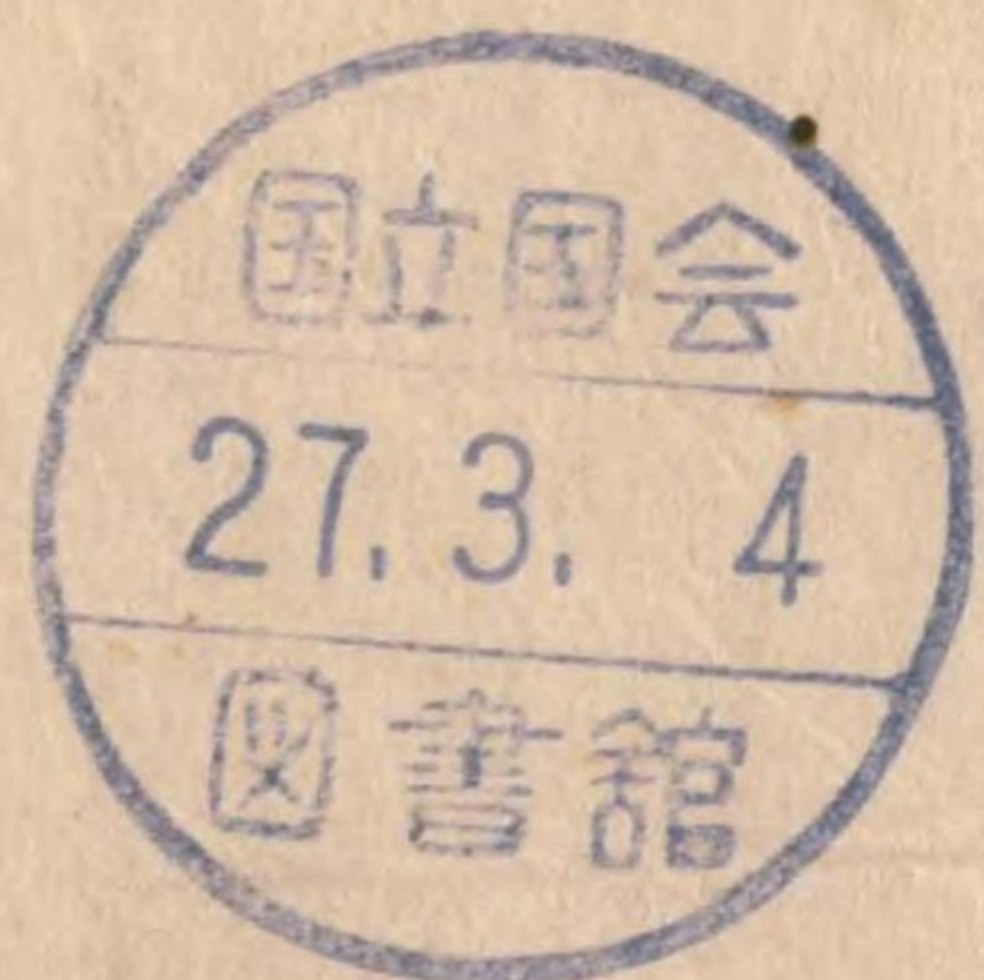


世継草端文

伊邪那岐伊邪那美神妹妹二柱嫁継給ひて國土生坐むと天
 柱を行巡り會給ひける小女神の御言先立給へる依て不
 祥とて所思一たがら隠處に興て御子蛭子栗島を生さ
 然るは蛭子三年待試給ひりとも葦尚未辛く流棄
 給ふ願見蒼生と住む可き地たをねがかり此蝦夷島の始
 かるは次は粟島を謂ゆる處の小島を漸く小潮沫の凝て
 成むる常世の戎は八十國から女神の御過稟て成る所か
 る故に自然外國の人性善くしむる教訓を以て此を諭導
 する非ざる倫常の能立つ事無し此天神と相申給ひて

世継草

序



261772

其次序を改め給ふ所なる獨此皇大御國ハ然らば
二柱神等正しく唱味きて生成坐る國なる故に皇神の愛
を以て國と云傳たると如く國の尊れ更なる人其心
も行も直く正しく有て實に神隨言舉為め國風ある是を以
て皇御孫命此國に天津高御座を定給ひて萬國を制し給ひ
萬國ハ此制を仰奉て教と為る所なり彼古に君子國と稱する
るを以て知ト先師田中政均翁萬國形勢大編年論に
所此師説小同ト云者有て愈信ふ事を得たり此世継草と讀
らむ人ハ著き物に文中に孕る事ヲ摘出て聊述る者なり
時ハ嘉永二年十月九日出羽國人大瀧光憲

世継草

淡路國 鈴木重胤述

高天原の事始給ひ皇祖天神の立給ひ定給ひて現御神と
天下統御に掛まると甚し可畏き皇御孫命の御世の継ニ高
御座天津日継と受給ひ持給ひて萬國を敷給ひ行ひ給ふ我
が皇神の大道は凡そ夫婦媾合の感に依り子孫を蕃息し生
育て皇祖天神より受賜する所の此生國を皇國と修り理
め固め成るの功を立て徳を為り是即皇天の賦命を
奉て國王萬民の皇御孫命の大朝廷に仕奉る所以なり天
下の大道乃天神隨たる所是なり

世継草

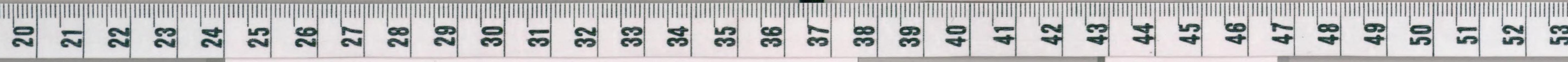
初

神典の皇祖天神の詔命を以て伊邪那岐伊邪那美二柱神
小是漂在国を修り理り固め成せと宣へし是を於て二柱
神夫婦適合く此國土萬物を修り理り固め成して神功
既より立ち徳も又大に成りし神を継ぐ人氏有る各相割
據て國土萬物を修り理り固め成せ其漂在る所より入る
人民功業は立所此なり天下乃大道ハ如此く彝倫小存
天神随小行されて在る者ありて為る由ありハ須臾も
立つ事能はざる者あり然る世我の大道ハ如此く天
地固有の神道なり其道の内は處かから儒釋と鼎立せ
る者れ如く思ふハ文盲千万此事を識者も常は此を

このうざるは大道を精究つても良し為りバ儒釋の輩は計
較争辨ハ中古より以來彼教を崇信する輩の多し見
て二教も同一やかる者も心得居る識見其卑ち依り
かり儒佛も我が神道の二端なる者ありて志縣天竺は
勿論天下萬國に在る有ゆる人もあらず者悉く賢愚貴賤と
問ふハ男女老少を云ひ及一室の間一日乃中なる動靜云
為皆我大道の行ひ非ざる無し其大なる事外無し其小
なる事内無し故小天地造化の大なる神祇の全能も倍
身齊家の微か一身に事業を皆ら此神道の作用は非
ざるは無く日月風雲山川草木禽獸虫象皆此神道の發見

世継草

二丁



非多は無一此即我の大道中不網羅せる物も是の外に
来て此は祐る非は神随ひて具有る所なり先此事と
心得る否らざれば道は尋倫の外に求る者も心得僻
父子は親の背は夫婦の愛を割て人性を率くも道は道
かして徒に書典を預け置く今世の學者は如く成る者
から豈此は大道と云ふ事を得む
皇祖天神の靈威男女二神の恩頼に依り國土成り人類有る
萬物生る所以に國土あり人類在り修り理め固ら成ら依り
成る所の者あり人類も國土も相割據て相共し其職業を以
修り理め固ら成り相輔け相保持つ者なり萬物人類の國土

字修り理め固ら成り乃徳を成り道を行ふ為に天神地祇は
賦與給ふ養料なり萬物多し雖も其質を為し所土石なり
草木なり活物なり此三種は過ら其用を利し食物なり衣
服なり居室なり又此三種は過らなかり如此く萬物有る人
類益し事を得べし是を以て夫婦の道有る親子此は因り成
る古語に天之益人なり云ふは此謂たり此は統御るを君と申
し此は奉仕るを臣と云ふ皆此は因り起り
然るに男女夫婦は人情の基本なり万業の最初なり
君の臣と御はる事應は夫の婦に於るが如く臣は君を奉
はる事婦の夫を思ふが如く相愛し相睦む時ハ明君は

世継草

三



了良相か父の間の此情を移せば慈父たり孝子なり
兄弟朋友に於ても此意を以て信有る義有る各其道に
能為る不至らむ斯を以て此と見れば夫婦は人道の規則
なりて人道は夫婦に資つて成る者なりとせば
國土終古に漂在る者なり人類在て修り理め固り成るに
依て能成る所有る而して未能成る所有るに依て父
此の子に授け子此を父に受く然せば男女相嫁継て子を生
成し事なり此漂在國に修り理め固り成る皇御孫命の大
御寶を貢奉る能はつて皇祖天神の造化を我よりて令為給ふ
所なり故に神語を顯見蒼生に宣給へり

天下の人民は皆大御寶なり云事ハ歴世に宣命より多く有
る事なり言義は天下の人民に右の如く此漂在る國
土に修り理め固り成るの徳有る衣食住の事と整へて世
間融通し相共し各其職を以て皇祖天神の賦
命を奉り朝廷に仕奉る有用の人民なり故に稱する所
なり凡大御寶の較略四等あり士なり農を工する商を
此の四民と云ふ各三職有て相混ぶる者なり其務る
業に其異がふと集大成て此漂在國に修り理め固り成
る事なり右の四民に凡て大御寶と云ふ所以なり又神語に
顯見蒼生と云ふ天下の人類ハ貴賤賢愚の等差有て一

世

甲



概小云べし... 皇祖天神の本源より云ふ時共
は該羅々々身體皇祖天神の産靈給ふ身體靈性皇
祖天神の配賦給へる靈性ありて身心共我有りて
我有なれば皇祖天神の我は假して字給ふ所れ物也
其歸ふ所ハ此漂在國より修り理め固め成ひず大任を授
依せ給ふ故小愛れ青人草と深く慈愛み給ふ所
なり

然も此身本より大御寶なる顯見蒼生たり我子其任我
成ひ所雖も朝廷の大御寶なる神祇小顯見蒼生たり相共
天之益人れ負ふ漏れ所かれ父母たりむ者は能く子たる

261772

者小神習せし此漂在る生國より是國を修り理め固め成
め其神隨の道小因循はむ可し子又父母は神習し其徳を
得て又子ニ孫ニは此を傳傳ふむと天地共小窮無く傳
分弘る事より皇祖天神の大孝天皇朝廷へ乃忠節豈此
小勝む者有むや生國是國其所由より思ふ可き者あり
父母れ先子祖と云ひ祖の先子曾祖と云ひ其先子高祖と
云ふ漸ニは遡上むば天下人類の先祖皇祖天神は在せ
る父母小仕ふる事の大なると知ふ可し士民共其主有
て従事次第真源に至むば天下公民は皆大君は皇御孫
命は坐せり朝廷不能仕奉らむ者ハ先能く其主人小奉仕

世継草

五



とく、此即士庶人乃朝廷に仕奉る道なり而も世間は
は多く神祇媚事を知り其色を生たる父母を屑も
為め者有つ我が神道を惡く心得違へ思人の態、雖
も大國主神の幽冥事は於て許諾し給はざる所なり終
其不孝の報有る可し然し近く父母に能仕る道は遠く
神明を賈く天下の大道なる事と思奇し又朝廷を仰奉
ふ可事と粗知て益其己の先祖以来従ひ憑は為る主
人な心一蔑知らる者有る是亦我が大道と學び損なたる
狂人の態なり其事の長びる小至て其不忠不義の筋
を以て皇御孫命の頭露事の改を以て御罰とて得る事な

了如何と為れど天下の士庶人申し迫り無く悉く朝廷
の公民ならず雖も然計し普く天下の事と天皇の御直よ
御指揮し出來よた故文武百官を置て天下の政務
を統領する給ひ諸國を國守有る郡司有る士庶人共
預け置せ給ふ所かれ其従て主として官長の其身を
は三公九卿等よ公に同く天皇の御名代と申
ひ者なり其人は指揮する所即朝廷の御指揮なり其主
人奉仕する所即朝廷に仕奉る所なり狂人翼ひる王室
家なり云々僻學は徒ハ僭乱の罪遁るべし其癡者も
欺るる事勿し又幽冥事顯露事の大御政の間然する

Atsumoto

六



事能^{こと}ざるは畏怖^{おそれ}慎^{つつし}む可^べし。
如此^{このやうに}夫婦^{夫婦}交^{まじ}りて子^こと儲^{たくわ}ふ事^{こと}實^{まこと}皇祖^{みまろ}天神^{あまのつみ}の恩賜^{めぐみ}な
る故^{ゆゑ}其^{その}出来^{ゆき}始^{はじ}の頃^{ころ}自^{みづか}ら思^{おも}はる程^{ほど}事^{こと}は漸^{しだ}に
月日^{つきひ}の立^たち随^まひ其^{その}身^みの動静^{どうせい}の常^{つね}憂^{うれ}はるを以^もて妊^{にん}娠^{ごん}はる
知^しる事^{こと}な^らず此^{この}全^{ぜん}く其^{その}行^ゆふ所^{ところ}久^{ひさ}事^{こと}なりて其^{その}成^{なり}る所^{ところ}即^{すなは}ち神
造^{つく}らる故^{ゆゑ}古^{いにし}歌^{うた}に白^{しろ}銀^{ぎん}も黄^{きん}金^{ごん}も珠^{たま}玉^{ぎよ}も何^{なに}為^なしよ勝^{かち}は
る寶^{たから}子^こは如^{ごと}くやいと詠^よつて父^{ちち}母^{はは}の心^{こころ}に應^{こた}は如此^{このやうに}く有^ある者^{もの}
かなんぞや。

然^{しか}し男女^{なんにょ}夫婦^{ふうふ}有^ありて子^こ孫^{そん}を継^つぐ事^{こと}も治^ち國^{こく}平^{へい}天下^{てんか}の
大^{だい}義^ぎもて一^{いっ}身^{しん}一^{いっ}己^この私^し非^ひび國^{こく}と豊^ゆ饒^{じょう}の武^ぶ備^びは厚^{あつ}く

はる夏^{なつ}全^{ぜん}く人^{ひと}民^{みん}の多^{おほ}少^{せう}に依^よると思^{おも}ふべし良^{りやう}田^{でん}有^あり雖^{なほ}も
耕^かる小^{せう}原^{げん}野^やは如^{ごと}く堅^{けん}城^{じやう}有^あり雖^{なほ}も士^し卒^{そつ}無^なくは防^{ぼう}禦^ごは
る人^{ひと}民^{みん}か^から^らず然^{しか}し貧^{ひん}乏^{ぱふ}は逼^{せま}つて子^こを土^{つち}中^{ちゆう}に埋^うむか^かば云^い
ふ夏^{なつ}ハ唐^{たう}戎^{じゆう}の惡^{あく}風^{ふう}俗^{じやく}のみ多^{おほ}く在^ある夏^{なつ}と聞^きくは其^{その}惡^{あく}
弊^{へい}の何^{なに}時^{とき}も無^なく此^{この}方^{かた}も移^{うつ}る邊^{へん}僻^{へき}の地^ちに世^よ業^{ぎやう}を志^しす
者^{もの}は稀^{まれ}に夏^{なつ}に在^ある其^{その}次^{つぎ}第^{だい}に聞^きくは懐^{くわい}胎^{たい}の夏^{なつ}有^あ
りて打^{うち}胎^{たい}藥^{やく}と云^いふは用^{もち}ひに密^{ひそ}に墮^おち捨^すてるも有^あり又^{また}收^{しゆう}生^{せい}
家^かに逃^{たう}へ已^いに生^{なま}るを待^{まち}て此^{この}後^{あと}殺^{ころ}す流水^{りうすい}に投^なげ土^{つち}中^{ちゆう}
に埋^うめたり有^あるも有^あるが此^{この}間^まに云^いて然^{しか}し之^{この}耻^ちとも

世継草

七



為^せざる由^りかゝる^ハ困窮^カる^ル愚民^カの實^ニ止事^ト得^ずる
よ^ク為^し以^て支^つか^らぬ^も親^ノ身^トして其^ノ子^ト殺^し犬狼^ノ
飼^は食^はる^為魚^ノ腹^ニ葬^ふ支^不仁^トも不^レ慈^トも譬^やる^物
無^き悪行^ト云^者か^らぬ^{如何}に^も其^ノ身^貧乏^しり^て子^ヲ養^育す
為^ふ親^ノ餓^死凍^死死^ぶじ^やる^例と^聞ば鳥^ノ獸^ノ子^ト養^育む
よ^見よ更^ニ一^粒の貯^り無^しじ^も餓^て死^せる^思ふ^可
一^蠶の出^る時^ニ當^つる^菜木^ノ芽^じが^如く萬^物の最^靈と
有^ふ人^ノの生^き出^る皇^祖天^神の天^祿豈^無可^しや
も俗^人の心^ノ儘^かる^榮耀^榮華^の支^つか^らぬ^其人^ノ分^限
有^て出^来ざる^{如何}に^も貧^民と^雖も裸^身と^繞ひ^程の衣

服^性命^ヲ続^ぐ程^ノ食^物雨^風ヲ防^ぐ程^ノ住^居其^身分^相
應^ニ天^地神^祇と^配賦^て人^ノ生^らす^死す^恩賜^也
ふ^所か^れぬ^氣遣^ひ無^き支^つか^らぬ^人や^云物^も身^ノ
乃^分限^ニ能^く忘^る者^中衣^服も暑^寒と^凌け^支足^ら
苦^くく^結構^かる^衣服^著饒^く食^物ハ空^腹支^無く^飢
之^為わ^ば能^く苦^の者^ハ味^ヲ物^ヲ好^む飲^食の支^は
自然^ニ僑^奢つ^出来^る家^居雨^風ヲ防^げ隨^分住^す
者^ハ分^際ト^大き^く住^む衣^食住^ノ三^共一^ニ
其^身相^應せ^る所^有為^ふ夫^祿先^ニ用^ひ費^ハ捨^て
貧^困の身^ト成^すか^れ皆^我が過^たり^我の過^てる^所な

世継草

六十一



顧みて咎り無き子と殺し棄て自安泰たりむ復し謀る
我身乃非道に云も更なり皇祖天神に對して朝廷に
對して沙汰の限らざる惡逆無道と云ふ者あり
我子寶ハ天下の大御寶あり其父母たりむ者我子に
て寔は清き明き大御宝と成りて貢奉す可き復勿論たる
其父母と云ふ内中も子に育教する親したる殊も母に在
る故に古書も母の事を御祖と云ふ然も婦人の懐妊する
事覺たりむは平生下りも行ひいふごとく心清く明
く持守者か如何とされ其子の身體と為る精神と
為る者ハ元來皇祖天神の顯出給ふ所たるごとく皆其母の

感る所の外物事は依て各自成る者なればたれ神ハ常も
我傍に在り我所行を見給ふ物平生心得置可し
母の感ハ懐妊の内見る物聞物就て善く惡く
嬉し哀し其事は觸て是れと思ふ有る胎内の子
其感應て其氣稟るのみか又其形類る者
其證妊婦に依て常好む煙草忌み常好む
酒と好む者あり有る其子出生の後必上戸とたれ煙草嫌
むる者あり大抵違ひ自然の事なり如此況や平生よ
し行義ふく心術清く婦徳と脩めて皇祖天神
の神隨の道を守ら其子必母の善性を稟て清く生る可

まき者から又妊婦兎肉を食ひて兎の子を生み狸を食
ひて狸毛の生たる子を生む者多し然しハ子の胎中ハ在
る間ハ食物雖も常は變じりて食奇りりハ形類
ハハ身毒しく生涯病者為り又孕婦火事を見
しハ赤紋有る子と生し首溢る見しハ首は横紋有る子は
生じ者から然し若し婦人目ハ怪し者を見し可し
ハ偶ハ怪物を見て其心感ずる時ハ胎内の子其形を受
て生る者から獵者の子其面貌禽獸彷彿たりと生
み好て鳥を捕る者の子は雀目なる多し漁者の子と生
じ時ハ魚の如き者胎衣と共に胎中より出る事稀なり

在りし聞て此等の事を世の惑へる輩かど悪報か云
ふ事なり然し非ハ母の所感ハ依る所から母たる者ハ
胎教無き為其子と云り廢者ハ為る事親の身と
て不仁から不慈あり又此ハ博しむや又人の生長せる後
小も見る物聞く物は就て常は其心動く事有る者かど
中ハ又禽獸感類者有る形ハ人あり其心禽獸
から如何かかれん天下人民乃道と為る所ハ此漂在る
生國ハ是國ハ修り理め固め成れ徳を以て彙倫の産業と
為るの故ハ其職異同有る雖も大旨織て衣服有る耕
して食物有る經營して家居有る者かど交ハ相輔ハ相

世継草

十一



救ふの融通有て天下と相保つ支たふ然るも自勉強事
能ふて他人の財を奪ひ主人の禄を盗て衣食住の安
泰を期る者有て是等ハ幽冥ト其隱惡ヲ顯露發表一
給ひて今も大御寶たし禽獸等一獄舎繫
られ其身と屠る是全く人面ありて獸心なり一惡行の
天譴なり但此等ハ其禽獸類とる者の罪めて親法知
所ハ非ざる如くかれハ父の教訓の盡さる致し所又
母の胎教の惡も致さる所力を其親も罪無一と
云べし

古書ハ我御世の事能く神習と顯見蒼生習哉の神語

有る皇祖天神の造給ふ此身なれど其神隨の道ヲ循と宣
へる者ハ神隨ハ神道ヲ隨へ六自然ありて神道有る
謂と云ふ其神道と云者ハ此漂在る生國と是國と修り理
め固め成ひの間ハ在る他は求め行ふ者ハ非ハ皇祖天神の
賦命レ徳と我知ハ彝倫ヲ為て行ふ所云なる如此く人
ハ神隨カ道ヲ備て在る者カる故善惡ヲ擇び心邪と
判つ事ハ寔ハ明亮カる者あり已不克チ神ヲ習ふ時ハ其行
ふ所善くして正しきを得神と犯し已と縱る為る時
其所業惡く邪を為る者カ其極まる所ハ能守る凌
犯ハのニ一在る直日神禍津日神の所由ありて荒魂和魂

神隨

十一



の作用か神祇の遠きる在るべ我が上下左右守護在
以夏より了解其行所應神隨か可き者かや
皇祖天神の御霊資る人類か其の故も如何か愚人雖
も善惡正邪人其別借借用びて我我身小判然
たる者も密夫の目と憚り盜賊の白晝と避るる彼
も然いのみ人間か故小自然も惡業と為り内りも
黑白と判は計は心具はるの故か凡世間の入事
於るや必是非の兩端有る其自是と為る所誠は行か
や又自非と思ふ夏も實は逆事もや他人に質問不及
かハト筈も求る及び神隨も我精神もふて聞

可一神慮や叶い人道一欽も物事何と無く愉快
者か姦惡邪曲の夏共ハ何處や心濟の為る所有
て縦や自欺も他と孰も欺得ても又何處も徒ら出
らるる氣遣く且其欺られたる人一時の禍事
て忘れても欺きも方何小就け某附一思ひ出さ
其尻縛は生涯大勞煩か者も然しハ我心小問
て我自答も事出来も夏も悉く禍夏と云ふ者
了古教も亡名も他人小は云て有る可一心の問は如何
答へむ。

斯在ハ各ニ其身計せよ愛し者ハ非しける素も神乃

世継草

十三



産靈依て成る所かれハ皇祖天神の分身なり其神功を幽
賛て此生國を修り理め固め成りて是國を為いの道を行ひ
其徳を循る時ハ神と我と一體なり又我心計り世は奇し
者ハ無つしけり神の恩頼り依て成る所かれハ皇祖天神の分
靈多し清く明く直く其行ふ所神随はる時ハ神
と我と靈合る所ハ天地は徹り神祇は貫く功業は立は者
かた如此は至るも寔は顕見蒼生を云る所詮有て天下は
大御寶の大御寶たる所を得べし是が我が神皇の大道は天
下萬國と細紀ハ所以ありけり故此大御寶を統御ハ現御神
と皇御孫命の天津日継の隆坐む克當ハ天壤と共ハ窮無る

可しと事依り奉給るる天照坐皇天御神の大御命の随ハ天
地と日月と共ハ限無く神随はる大御風儀の自然行はる真
は神随言奉為ハ皇天御國の天下萬國ハ本大御國たる徵信
ハ有るかりしなり
然りハ天下萬民の須臾も離る可らざるハ離る可きハ道
非ざる所の大道ハ此漂在國ハ相割據て各其産業を以て修
り理め固成りて生國と是國と為る徳を以て不知ニニハ皇
祖天神の御事依り皇御孫命の御教化は因准り奉居る事
あり古今萬國の差別無く男女貴賤の隔無くして實ハ一日
片時も逃る可らざる所の道なり諸修理固成の較略なり

世継草

十三丁



云む一不修ハ士カウ農カウ工カウ高カウ各其職業有
て國家の用と利ト衣食住の料ニ充ツ此即修カク一理ト
ハ國々も家々も身々も治るカク君臣父子夫婦兄弟勿友
の道此中ニ在リ仁義礼智の如ク又此中ニ在テ行クナ
リ神祇ヲ祭祀シ孝ニ至極アル朝廷ニ奉仕シ忠ノ至極アル
萬業此ニ法則テ立ツ此即理カク三固トク士ニ行
有テ馬の術ヲ精練シテ天下ニ為レ備ルカク利欲ニ
感溺ス武道ヲ傍ニ為レ固ニ非ルカク農田ヲ作ル
百姓アル耕ト耘ト以テ業ト為レ所カク禄有シ武士
の真似ヲ為ルカク富者カク財有ハ高賈ト羨ル農事ト

厭ム者アル此固ニ非ルカク工ハ大工ト始テ凡ソの細工人
カク各持前の支有テ得手の支有テ其業ニ妙ニ得ル所有
ス者アル其中心カク此カク為レ凡工ト至ラズ可シ
此固ニ非ルカク高ハ賣買ヲ以テ國用ニ通ル職カク
山事ト為テ過分の利ヲ得テ他ノ難ニ顧ルカク如ク固ニ非
ルカク然レバ固ニ餘念無ク其守ル所ニ一ツテ其貞
操ヲ易ガズ謂カク四ニ成ルハ功業の盡ル支環
の端無ク如ク人類の世ニ生シ来ルカク男女老少共ニ皇祖
天神ト有用の人カク故ニ衣食住の資料ト給テ世
小養ヒ置セ給ル所ノ者カク手足の働ク間ハ各其職業の

世継草

十四丁



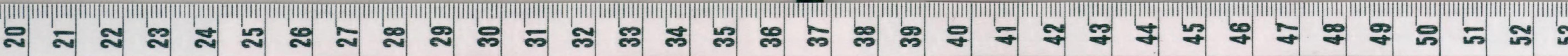
經營に使用せ給ふとして活置せ給ふ者たれば安閑として
徒然とく可惜光陰と費ひ可ま者ふ非ひ假有千年万年
生延ても此を成就と云ふ期々有べし其職業の經營
ふ於て今日より能成ひ所有る明日より其未成ざる所を
能く成ひべし此國土を漂在國と云ひ生國とも足國とも
云ふまは實に幽深な味有る事なり此即成と云ふ事の趣
ある合せ此四の物より四民共々其職を倚て循る徳と云
ふ此外不利屈ハ無き筈の者かろ學びて此道を明く為
る或神習と云ひ務て此道を行くと神随と云ふ此即天下
公民の道と為す道なる者なり

世継草後序

古事記の修理固成是多陀月幣流之國と有る神代紀は宜
汝往循之と見ると修理固成と約て循と云を以て思ふる
皇御孫命は天下と所知食と申は此修理固成の事なり
了又天神の事依給ふ所と受て此道と云ふ事有る然も天
下の道と云者ハ右に修理固成の外ハ出でざるも御紀ハ
惟神謂随神道自有神道と有る此道は因り給ひ其道
より由る所を以て神随と云ふ人ニ各ニ固より備る所の
徳有る相易なり事海幸彦山幸彦の故事を見ると其徳
違はざれば衣食住の經營立の事と得べし其經營と務めば

世継草

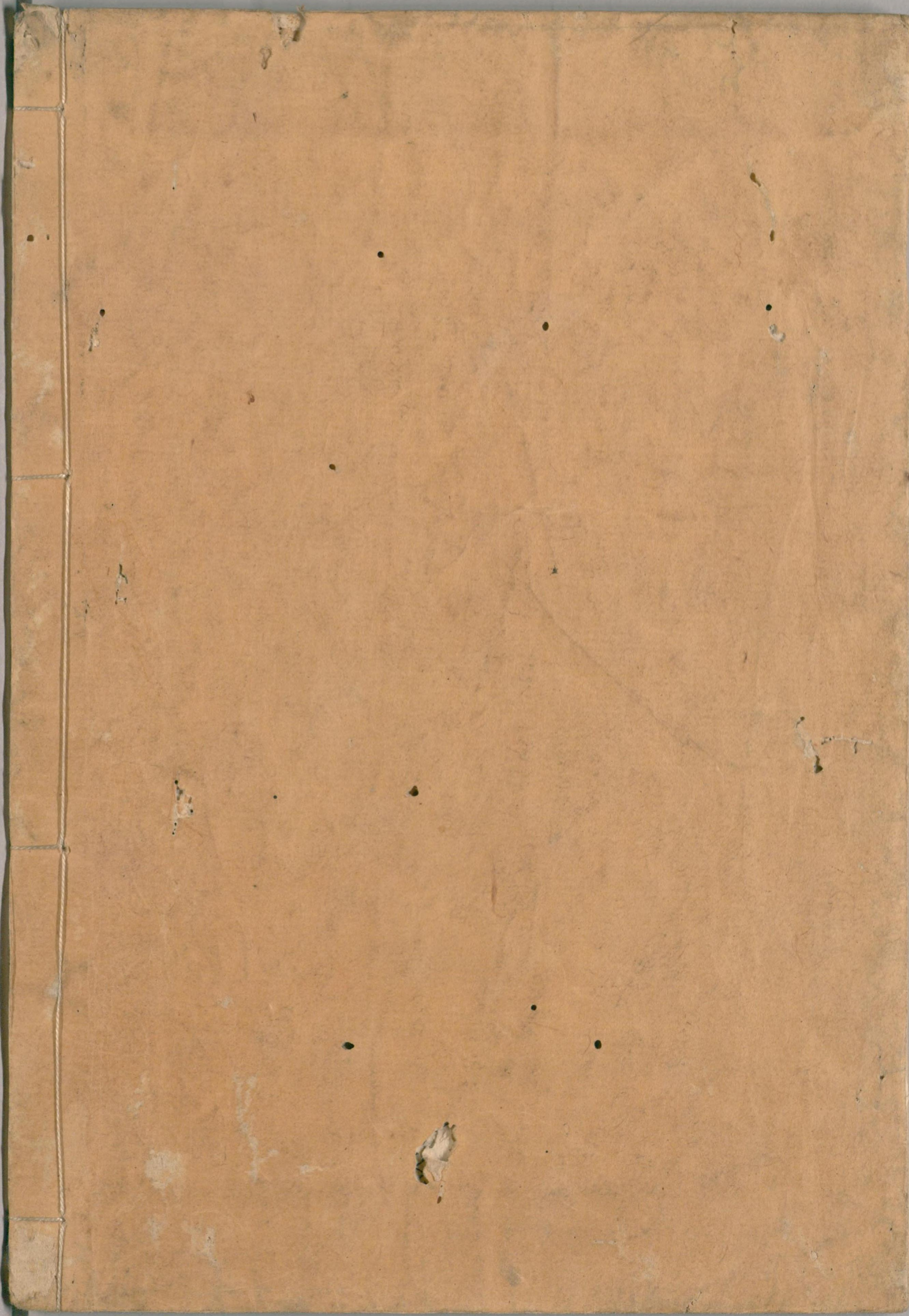
跋



して此道^{コノミチ}を反^{サカ}ける^{コト}は^シ罪^{ツミ}と云^イふ^{コト}大^{オホ}被^{カケ}の^{コト}天^{アマ}罪^{ツミ}ハ^シ衣^イ食^シ住^{ジュ}の^{コト}害^{ガイ}し
 始^{ハジ}む^{コト}と見^ミつ^{コト}可^べし^{コト}斯^カ在^レ人^{ヒト}倫^{リン}日^ヒ用^{ヨウ}れ^{コト}急^イ務^ムは^シ衣^イ食^シ住^{ジュ}の^{コト}事^{コト}
 其^{ソノ}為^{ナリ}者^{モノ}ハ^シ德^{トク}ニ^シ在^リ其^{ソノ}德^{トク}の^{コト}立^ツつ^{コト}所^{トコロ}ハ^シ修^{シユ}理^リ固^{コト}成^ス小^{コト}在^リ
 其^{ソノ}見^ミ聞^ク覚^ス知^ル皆^{ナニ}此^{コノ}道^{ミチ}の中^{ナカ}ニ^シ在^リ了^ス循^{ジュン}と^シハ^シ領^{リョウ}知^チ神^{カミ}随^ズ其^{ソノ}道^{ミチ}
 行^{ユク}よ^クの^{コト}謂^{イハ}れ^ル也^{ナリ}世^{ヨシ}人^{ヒト}閑^{ケン}閑^{ケン}の^{コト}天^{アメ}地^チを^シ説^{トキ}今日^{ケノヒ}れ^{コト}天^{アメ}地^チを^シ云^{イハ}ふ^{コト}
 神^{カミ}典^{テン}の^{コト}由^ユ雖^{イハ}れ^ル猶^{ナホ}其^{ソノ}道^{ミチ}の^{コト}體^{タイ}用^{ヨウ}を^シ知^チ此^{コノ}書^{シヤ}と^シ其^{ソノ}大^{オホ}道^{ミチ}の^{コト}較^{カウ}略^{リョク}
 子^コ記^キし^{コト}ハ^シ捷^{セツ}徑^{キョウ}と^シハ^シ此^{コノ}書^{シヤ}成^ス於^{オケ}此^{コノ}序^{コト}を^シ命^メら^ル今^{イマ}將^{マシ}求^ム
 め^ク何^{ナニ}の^{コト}云^{イハ}ふ^{コト}其^{ソノ}聞^ク持^チつ^{コト}所^{トコロ}を^シ記^キし^{コト}時^{トキ}嘉^カ永^{エイ}三^{サン}年^{ネン}月^{ゲツ}二^ニ十^{ジュウ}
 日^{ニチ}薩^{サク}摩^マ國^{クニ}人^{ヒト}竹^{タケ}内^{ウチ}經^{キョウ}成^ス

昭和十六年八月廿九日
 小牧安方、敬之

昭和十六年八月廿一日
 東京より京都への汽車の中より
 一讀了
 小牧安方、敬之



国立国会図書館 タイトル『世継草』 請求記号 121.27-Su871y

ガラス使用